

# タテ軸(街並軸)の整備

街並軸(タテ軸)の整備においては、伝統的街道の性格を残すため道路の幅は一切行なわない。残された足軽屋敷を保存・整備するとともに、伝統的建築群の再生を行なう。再生地区は、日本の伝統的な町屋を体験できる足軽屋敷の構成を踏襲する。

## ◆伝統的家屋群の再生

芹橋地区において辻番所周辺は、足軽組屋敷が比較的密集して残存しているエリアである。辻番所が現在の芹橋地区の主要観光資源である事を鑑み、まずは辻番所周辺に足軽組屋敷を家屋群として再生することで、善利組スクエアからの観光ルートを整備し、伝統的家屋群再生の拠点として機能させる。

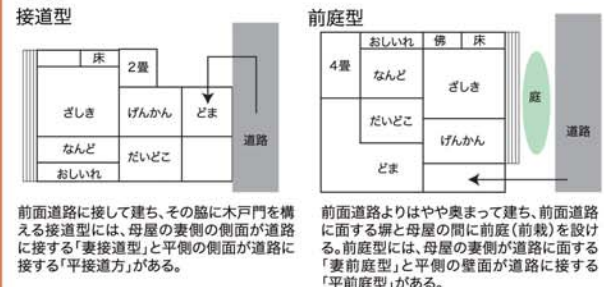
足軽組屋敷体験型施設に入る家族



＜プログラム＞  
再生伝統的家屋群は比較的短期で滞在する人々をターゲットとし、本案では大学生や観光客を想定している。定期的に入れ替わる人の流れが、地域に新たな活気を継続的に与える契機を創出する。  
◆善利組屋敷体験型公開施設： 辻番所と隣接する足軽組屋敷は、公開施設として足軽組屋敷での生活を垣間見ることができ体験型の施設とする。  
◆大学生向け学生寮(足軽ドミトリ)： 学生寮は、伝統的家屋群の一角をなし、再生された伝統的家屋を大きく変更することなく住むことが要求される。  
◆観光客向け宿泊施設(足軽ゲストハウス)： 伝統的な家屋を宿泊施設として利用するために、寝室とともに風呂又はシャワー室を完備する。また、炊事場を整備することで、彦根や京都を訪れた外国人観光客の短期・中期滞在も可能とする。

## ◆建替え時は伝統的家屋形式を踏襲

彦根藩の足軽屋敷は規模は小さいものの武家屋敷の体裁を整えた構成をしている。前面に木戸門と目板瓦葺きの塀を備え、母屋の入り口が直接道路に接することがないようになっている。ほとんどの屋敷は南北方向の通りの両側にあって間口5間奥行き10間の短冊形を基本としている。街並軸(タテ軸)の整備に伴い、新規建築及び移築建築に関してはこの伝統的な建築方式を踏襲する。具体的には以下の二つの形式を基本とする。



◆屋敷住宅の取扱いには特徴があり現代の生活スタイルに必ずしも沿うものとはいえないものの、体験型施設や外国人観光客の短期・中期滞在施設としてすることで、伝統的形式を出来るだけ踏襲した形を確保できると考えられる。  
◆善利組の足軽屋敷は、芹川堤の真下にあり、ケヤキ並木からはこの伝統的な建築群の上に彦根城を垣間見ることができる。伝統的建築群の再生は、かつての眺望を取り戻すことにもつながる。

## ◆歩道面の整備

◆伝統的建築群の再生に合わせて、街並軸(タテ軸)の整備を実施する必要がある。新辻の開通やカーシェアリング・シェア駐車場の実施によって、自家用車の減少と新辻沿い駐車場が確保されるため、街並軸への車の進入はかなり軽減されることになる。そのため、街並軸を歩行者専用の道路として整備することができる。  
◆街並軸の道路面には、新辻のテクスチャに合わせて石畳を基本とする。出来るだけ凹凸のないようにすることで歩行者の利便性を確保する一方で、伝統的建築群地区であることを考慮しなければならない。



# 平成善利組之図



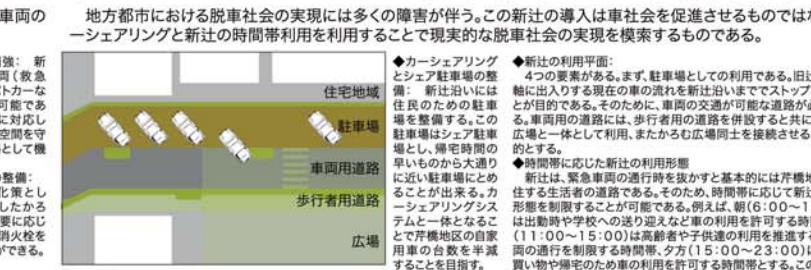
## ヨコ軸(生活軸)の整備:新辻の導入

かつて文字通り足軽たちが住んでいた江戸期の善利組足軽屋敷地区への訪問者は、ヨコ方向の旧辻(生活軸)から入り、それぞれの目的の家の近くでタテ方向の軸(街並軸)へ曲がっていった。このヨコ方向の軸を現代的な生活軸へ新しく整備したものが新辻である。新辻の整備と共に、消火栓、カーシェアリング、シェア駐車場、新辻の時間帯利用の推進によって、防災面を強化したまちづくりを目指す。ヨコ方向の旧辻と新辻は、芹川に整備する自然ふれあいロードと共鳴し、水辺を利用した豊かな生活空間を創出する。

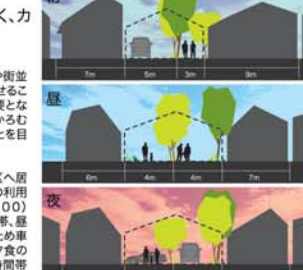
### ◆防災に向けた新辻の導入



### ◆カーシェアリング・シェア駐車場・新辻の時間帯利用

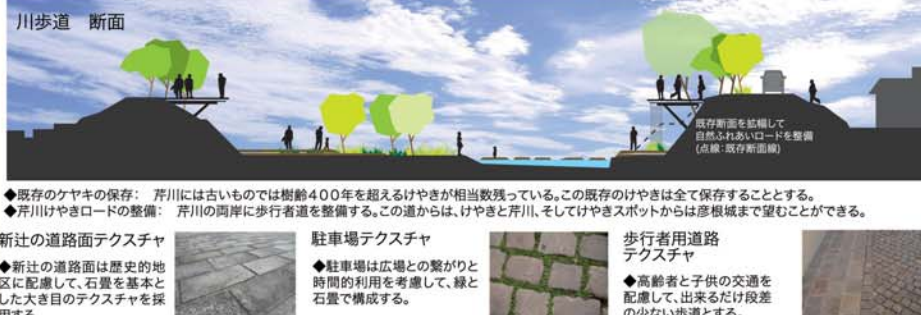


### 時間帯に応じた新辻の利用形態



## ◆芹川けやきロード&けやきスポット

芹川は江戸時代から生活用水を提供する生活に密着した河川であったが、上下水道の整備・車両の普及・堤防道路の交通量の増加に伴い現在は芹橋地区と分断されている。新辻の整備に伴い防災面を補完すると共に、河川側の新しい導線として芹川けやきロードとけやきスポットを整備する。芹川けやきロードは新辻と平行に走り、伝統的地区からは街並軸を通じて容易にけやきスポットまで導かれる。



芹川の人道橋からは、彦根城を望む



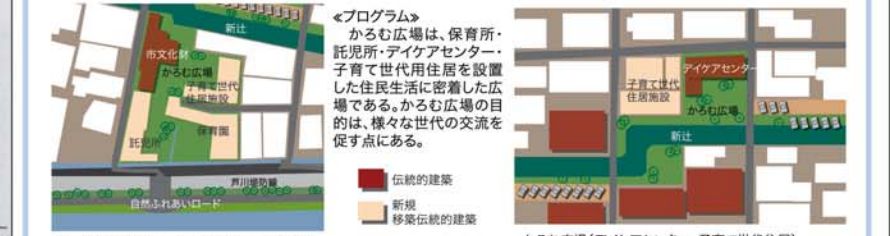
## 面的整備(ヨコ×タテ=面)

新辻(ヨコ軸)と街並軸(タテ軸)の交点に生まれる面を、それぞれの場所の性格に応じて広場空間として整備することで、住民同士、住民と長期滞在者、観光客との交流の場として利用することが可能となる。本広場は、老若男女が行き交う芹橋地区の生活者のためのコミュニティ再生拠点となる。

### コミュニティ再生拠点・防災拠点「かるむ広場」

かるむ広場は、新辻に隣接して整備されるコミュニティ再生拠点である。かるむ広場の予定地は、現在空地である場所を基本として立替時に適宜換地を行うことで、一定の大きさの広場空間を確保する。新辻によってかるむ広場同士が接続され、子供・高齢者・学生・若者夫婦の交流の拠点として利用される。

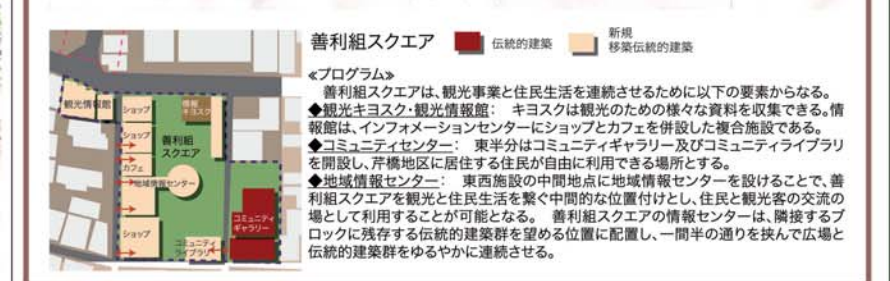
新辻の車両制限時間帯の利用(11:00~15:00)  
新辻はかるむ広場と一体となる



◆子育て世代用住居施設： 車を利用した現代生活に未対応であった芹橋地区では若者離れが進み、「まちばなれ」現象がさらなる人口減少を生み出している。この悪循環を断ち切るため、車社会に対応した新辻沿いに子育て用住居施設を設け、若者世代を呼び戻す。事例では、どんつきの先に子育て世代住居施設と保育園を配置することで、狭小路を効果的に利用することが出来る。  
◆保育所・託児所： 子育て世代の要求に対応して、保育園及び託児所を設置する。保育園・託児所を子育て世代の住居とかるむ広場に隣接させることで、共働き世帯への利便性と子育て環境を向上させる。  
◆ダイケアセンター： 芹橋地区の高齢者が自由に利用することが出来るダイケアセンターを設置する。

## 観光の入口「善利組スクエア」

芹橋地区は、彦根城の中濃の京橋より南へ延びるキャッスルロードから、長曾根銀河原線を経て観光ルートから分断されている。この観光客が足を伸ばすことを躊躇する都市構造を解消するために、キャッスルロード終端地点から芹橋地区を望む位置にアイ・ストップとしてキャッスル広場を設け、観光客を呼び込む契機を確保する。



◆観光客の受け入れ： 観光客の受け入れのために以下の要素からなる。情報センター、観光客センター、観光客センターにショップとカフェを併設した複合施設である。  
◆コミュニティセンター： 東半分はコミュニティギャラリー及びコミュニティライブラリを開設し、芹橋地区に居住する住民が自由に利用できる場所とする。  
◆地域情報センター： 東西施設の中間地点に地域情報センターを設けることで、善利組スクエアを観光と住民生活を繋ぐ中間的な位置付けとし、住民と観光客の交流の場として利用することが可能となる。善利組スクエアの情報センターは、隣接するブロックに残存する伝統的建築群を望める位置に配置し、一間半の通りを挟んで広場と伝統的建築群をゆるやかに連続させる。